

- Mizuguchi M, Nakao M, Nokano H, Ohkido I, Ohtsuka Y, Okada K, Okamoto H, Okonogi H, Saikawa H, Saito H, Sekiguchi C, Suetsugu Y, Sugano N, Suzuki T, Suzuki T, Takahashi H, Takahashi Y, Takamizawa S, Takane K, Morita T, Takazoe K, Tanaka H, Tanaka S, Terawaki H, Toyoshima R, Tsuboi N, Udagawa T, Ueda H, Ueda Y, Uetake M, Unemura S, Utsunomiya M, Utsunomiya Y, Yamada T, Yamada Y, Yamaguchi Y, Yamamoto H, Yokoo T, Yokoyama K, Yonezawa H, Yoshida H, Yoshida M, Yoshizawa T.: Antihypertensive effect of a fixed-dose combination of losartan/hydrochlorothiazide in patients with uncontrolled hypertension: a multicenter study. *Clin Exp Nephrol.* 16:269–78, 2012
10. Danjoh I, Sone H, Shirota R, Hiroyama R, and Nakamura Y. Development of a robust method for establishing B cell lines using Epstein–Barr Virus In Vitro Cellular and Developmental Biology. *Animal.* 48: 393–402, 2012.
11. Danjoh I, Shirota R, Hiroyama T, and Nakamura Y. Dominant expansion of a cryptic subclone possessing an abnormal karyotype occurs in B lymphoblastoid cell lines during culture. *Cytogenetics and Genome Research.* (in press)
12. Yoshikado T*, Takada T*, Yamamoto H, Tan JK, Ito K, Santa T, Suzuki H. (*: Equally contributed) Ticlopidine, a Cholestatic Liver Injury-inducible Drug, Causes Dysfunction of Bile Formation Via Diminished Biliary Secretion of Phospholipids: Involvement of Biliary-excreted Glutathione-conjugated Ticlopidine Metabolites. *Mol Pharmacol.* 2013 ;83(2):552–62.
13. Ito M, Yamanashi Y, Toyoda Y, Izumi-Nakaseko H, Oda S, Sugiyama A, Kuroda M, Suzuki H, Takada T, Adachi-Akahane S. Disruption of Stard10 gene alters the PPAR α -mediated bile acid homeostasis. *Biochim Biophys Acta. - Mol Cell Biol Lipids.* 2013 ;1831(2):459–68.
14. Ikebuchi Y, Shimizu H, Ito K, Yoshikado T, Yamanashi Y, Takada T, Suzuki H. Ursodeoxycholic acid stimulates the formation of the bile canalicular network. *Biochem Pharmacol.* 84(7):925–35, 2012.
15. Yamanashi Y, Takada T, Shoda J, Suzuki H. A novel function of NPC1L1 as a negative regulator of NPC2 protein. *Hepatology.* 55(3): 953–964, 2012.
16. 中村真希子、安西尚彦、細山田真、市田公美: Fluorescein を用いた尿酸トランスポーター機能評価法の検討. 痛風と核酸代謝. 36: 87–94, 2012.
17. 宮崎聰、水田栄之助、太田原顕、浜田紀宏、萩野 和秀、市田公美、加藤雅彦、山本 康孝、山本 一博、鈴木さゆり、久留 一郎. 降圧不十分な高血圧患者におけるイルベサルタン投与後の

尿酸代謝に及ぼす影響. *血圧*. 20, 83–87, 2013.

【総説・著書】

18. 中山昌喜, 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 四ノ宮成祥. ABCG2 と高尿酸血症高尿酸血症と痛風(メディカルレビュー社). 21(1); 43–8, 2013.
19. 松尾洋孝, 市田公美, 高田龍平, 中山昌喜, 四ノ宮成祥. 尿酸動態の支配要因としての尿酸トランスポーター. *細胞工学*. 31: 553–7, 2012.
20. 千葉俊周, 松尾洋孝, 中山昌喜, 市田公美, 四ノ宮成祥. 遺伝性腎性低尿酸血症. *日本臨床*. 807–11, 2012.
21. 千葉俊周, 松尾洋孝, 市田公美, 四ノ宮成祥. テーマ:A.診断 8.低尿酸血症の頻度, 原因, 分類を教えてください. *腎と透析*. 301–4, 2012.
22. 中山昌喜, 松尾洋孝, 市田公美, 四ノ宮成祥. 【腎疾患治療マニュアル 2012–13】尿細管疾患 尿細管機能異常症 腎性低尿酸血症. *腎と透析*. 370–3, 2012
23. 高田龍平, 松尾洋孝, 市田公美. 尿酸排出トランスポーターと高尿酸血症の新たな発症メカニズム. *日本医事新報「一週一話」(日本医事新報社)*. 4637: 48–9, 2013.
24. 高田龍平 トランスポーターによる生活習慣病関連物質の体内動態制御機構の解明 *Drug Delivery System(日本DDS学会)*. 28(2); 154–5, 2013.
25. 高田龍平 生活習慣病とトランスポーター *薬事日報(薬事日報社)*. 2012年12月17日 4面
26. 高田龍平 <最前線>尿酸トランスポーターと疾患 ファルマシア(日本薬学会). 48(12); 1144–8, 2012.
27. 高田龍平 尿酸トランスポーターと高尿酸血症・痛風発作について教えてください *腎と透析(東京医学社)*. 73(3); 364–8, 2012.
28. 高田龍平, 山本英明, 増尾友佑, 山梨義英, 鈴木洋史 コレステロールの消化管吸収・胆汁排泄と NPC1L1・ABCG5/G8 *The Lipid(メディカルレビュー社)*. 23(3); 238–44, 2012.
29. Ichida K, Amaya Y, Okamoto K, Nishino T. Mutations associated with functional disorder of xanthine oxidoreductase and hereditary xanthinuria in humans. *Int J Mol Sci*. 13:15475–95, 2012.
30. Bayram E, Topcu Y, Karakaya P, Yis U, Cakmakci H, Ichida K, Kurul S H. Molybdenum cofactor deficiency: Review of 12 cases (MoCD and review). *Eur J Paediatr Neurol*. 17; 1–6, 2013.
31. 市田公美, 天谷吉宏, 西野武士. キサンチン酸化還元酵素研究 110 年(第3回) 酵素のクローニングと欠損症. *高尿酸血症と痛風*. 20: 175–181, 2012.
32. 市田公美. 痛風・高尿酸血症研究における最近の進歩—腎障害と新しい高尿酸血症発症メカニズムを中心に—. *適応医学*. 16: 23–30, 2012.
33. 市田公美. 低尿酸血症の臨床的取り扱い. *Medicina*. 49: 1355–1357, 2012.
34. 市田公美. 尿酸トランスポーター異常症(GLUT9). *小児内科*. 44: 1693–1696, 2012.

35. 市田公美. 遺伝性キサンチン尿症. 日本臨床別冊先天代謝異常症候群(第2版)(上). 592–595, 2012.
36. 市田公美. モリブデンコファクター欠損症. 日本臨床別冊先天代謝異常症候群(第2版)(上). 596–599, 2012.
37. 市田公美. 尿酸トランスポーター研究の進歩. *THE BONE*. 26: 331–333, 2012.
38. 市田公美. 【高尿酸血症・痛風治療における新たな時代の幕開け】今後の創薬の戦略. *Medicinal*. 2: 30–38, 2012.
39. 市田公美. 【高尿酸血症・痛風治療の実践ガイド】腎障害・慢性腎臓病(CKD)合併例. *Progress in Medicine*. 32: 41–46, 2012.
40. 市田公美. 高尿酸血症に伴う腎障害. 日本臨床別冊腎臓症候群(下). 342–346, 2012.
41. 市田公美. 腎性低尿酸血症[特発性、続発性]. 日本臨床別冊腎臓症候群(下). 842–845, 2012.
42. 市田公美. キサンチン尿症. 日本臨床別冊腎臓症候群(下). 365–368, 2012.
43. 市田公美. 尿酸代謝異常症の最前線. *BIO Clinica*. 27: 124–129, 2012.
44. 市田公美.【臨床医のための高尿酸血症・痛風のABC】その他 健康診断で血清尿酸値の低い人がいます。何か不都合はありますか? *高尿酸血症と痛風*. 20: 78–80, 2012.
45. 市田公美:キサンチン酸化酵素と臓器障害. *Heart View*. 17: 154–159, 2013.
46. 市田公美:キサンチン尿症. 遠藤文夫, 山口清次, 大浦敏博, 奥山虎之編. 先天代謝異常ハンドブック. 中山書店, 288–289, 2013.
- 【学会発表】**
47. 市田公美、松尾洋孝、高田龍平、中山昌喜、清水徹、春日裕志、中島宏、中村好宏、高田雄三、河村優輔、内海由貴、中村真希子、櫻井裕、細谷龍男、四ノ宮成祥、鈴木洋史. 尿酸の腸管排泄低下は高尿酸血症の主要な新規機序である. 日本消化器学会第99回総会, 鹿児島, 2013.3.21.–2013.3.23.
48. 松尾洋孝、高田龍平、中山昌喜、清水徹、中島宏、中村好宏、高田雄三、櫻井裕、細谷龍男、四ノ宮成祥、鈴木洋史、市田公美. Decreased urate excretion from intestine is a common cause of hyperuricemia. 腸管における尿酸排泄の低下は高尿酸血症の新規機序である. 第90回日本生理学会大会, 東京, 2013年3月27日～29日【受賞】
49. 松尾洋孝、高田龍平、中山昌喜、清水徹、高田雄三、井上寛規、岡田千沙、中村真希子、細山田真、四ノ宮成祥、細谷龍男、市田公美: ABCG2の機能低下による腎外の尿酸排泄低下:高尿酸血症の症例解析と動物モデル解析. 第46回日本痛風・核酸代謝学会総会, 東京, 2013.2.14–2013.2.15.
50. 中山昌喜、松尾洋孝、市田公美、高田龍平、岡田千沙、清水聖子、千葉俊周、崎山真幸、細谷龍男、四ノ宮成祥: 腎性低尿酸血症の実態把握調査について(第1報). 第46回日本痛風・核酸代謝学会総会, 東京, 2013.2.14–2013.2.15.

51. 高田雄三、松尾洋孝、高田龍平、清水徹、四ノ宮成祥、市田公美. ABCG2 遺伝子タイプに基づく高尿酸血症における新規病型分類の提唱 第 23 回生物試料分析科学学会年次集会, 大阪 2013.2.10.～2013.2.11.
52. 松尾洋孝、高田龍平、中山昌喜、清水徹、春日裕志、中島宏、中村好宏、高田雄三、中村真希子、櫻井裕、四ノ宮成祥、鈴木洋史、市田公美: 痛風病因遺伝子 ABCG2 の解析による高尿酸血症の新規病態の解明. 第 23 回日本疫学会, 大阪, 2013.1.24–2013.1.26.
53. 中山昌喜、松尾洋孝、高田雄三、中島宏、佐藤弘樹、中村好宏、森厚嘉、内藤真理子、菱田朝陽、若井建志、清水聖子、及川雄二、丹羽和紀、櫻井裕、市田公美、浜島信之、四ノ宮成祥: 痛風病因遺伝子 ABCG2 の変異が血清尿酸値におよぼす影響. 第 23 回日本疫学会, 大阪, 2013.1.24–2013.1.26.
54. 高田雄三、松尾洋孝、中山昌喜、中島宏、松村耕治、鈴木康司、浜島信之、櫻井裕、四ノ宮成祥、小林靖: 全自動 SNP タイピング装置を利用した痛風の遺伝子タイプ. 日本 DNA 多型学会第 21 回学術集会, 京都, 2012.11.7–2012.11.9.
55. Matsuo H, Takada T, Nakayama A, Shimizu T, Kasuga H, Nakashima H, Nakamura T, Takada Y, Kawamura Y, Utsumi Y, Ogata H, Nakamura M, Sakurai Y, Hosoya T, Shinomiya N, Suzuki H, Ichida K. Common dysfunctional variants of ABCG2 decrease extra-renal urate excretion and cause hyperuricemia, 2012 American Society of Human Genetics 62nd Annual Meeting, San Francisco, USA, 2012.11.6–2012.11.10.
56. 松尾洋孝、高田龍平、中山昌喜、清水徹、春日裕志、中島宏、中村好宏、高田雄三、河村優輔、内海由貴、中村真希子、櫻井裕、細谷龍男、四ノ宮成祥、鈴木洋史、市田公美: ABCG2 遺伝子変異に基づく高尿酸血症の病態解明と新規病型分類. 日本人類遺伝学会第 57 回大会, 東京, 2012.10.25–2012.10.27.
57. 中山昌喜、松尾洋孝、高田龍平、清水徹、春日裕志、中島宏、中村好宏、高田雄三、河村優輔、内海由貴、中村真希子、櫻井裕、細谷龍男、四ノ宮成祥、鈴木洋史、市田公美: ABCG2 機能低下による「腎外排泄低下型」高尿酸血症. 日本薬理学会関東部会, 東京, 2012.10.20–2012.10.27.
58. Matsuo H, Sander SE, Hamann M, Richter A, Hamada T, Nakayama A, Utsumi Y, Kawamura Y, Hiroyuki O, Kaida K, Kobayashi Y, Kamakura K, Shinomiya N: Genetic analysis of paroxysmal dystonic choreoathetosis (PDC/PNKD); Patient and hamster model study, the 16th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders, Dublin, Ireland, 2012.6.17–2012.6.21.
59. 内海由貴、松尾洋孝、高田龍平、中山昌喜、清水徹、春日裕志、中島宏、

- 中村好宏、高田雄三、河村優輔、中村真希子、櫻井裕、細谷龍男、四ノ宮成祥、鈴木洋史、市田公美: 高尿酸血症の新たな発症機序の解明: ABCG2 の機能低下による腸管からの尿酸排泄低下. 第 7 回日本トランスポーター研究会年会, 京都, 2012.6.9–2012.6.10.
60. 高田龍平、市田公美、松尾洋孝、中山昌喜、村上啓造、山梨義英、春日裕志、四ノ宮成祥、鈴木洋史. Decreased ABCG2-mediated urate excretion from intestine is a common cause of hyperuricemia. 尿酸トランスポーター ABCG2 による腸管への尿酸排泄の低下は腎外排泄低下型高尿酸血症の原因となる. 第 86 回日本薬理学会年会, 福岡, 2013.3.21.–2013.3.23.
61. 高田龍平. コレステロール・脂溶性ビタミンの腸管吸収機構. 第 91 回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム, 東京, 2013.2.16.
62. 首藤剛、鈴木伸吾、佐藤卓史、金子雅幸、高田龍平、メリーアンスイコ、鈴木洋史、甲斐広文. HRD1・RMA1 ユビキチンリガーゼファミリーによる E3 活性依存的・非依存的なヒト ABCG5/ABCG8 蛋白質の負の制御. Negative regulatory roles of RMA1 and HRD1 in the posttranslational regulation of ABCG5/8 involve both E3 activity-dependent and -independent pathways. 第 85 回日本生化学会大会, 福岡, 2012.12.14.–2012.12.16.
63. 高田龍平. コレステロールの胆汁分泌制御におけるトランスポーター群の相互制御・機能連関. 生理学研究所研究会 細胞センサーの分子機構・相互関連・ネットワーク研究会, 岡崎, 2012.11.29.–2012.11.30.
64. 高田龍平、市田公美、松尾洋孝、中山昌喜、村上啓造、山梨義英、春日裕志、四ノ宮成祥、鈴木洋史. 尿酸トランスポーター ABCG2/BCRP の機能低下型遺伝子多型は腎外排泄低下型高尿酸血症をもたらす. 第 33 回日本臨床薬理学会学術総会, 那覇, 2012.11.29.–2012.12.1.
65. 豊田優、守矢恒司、玉井美保、高田龍平、鈴木洋史、柏倉風純、曾我朋義、田川陽一. Acetaminophen-induced hepatotoxicity in a liver tissue model consisting of primary hepatocytes assembling around an endothelial cell network. 新規肝組織モデルの構築と応用:アセトアミノフェンに対する応答性の評価 第 6 回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム, 京都, 2012.11.23.–2012.11.24.
66. 高田龍平、鈴木洋史. Lifestyle-related diseases and transporters. 薬物トランスポーターと疾患. 第 27 回日本薬物動態学会年会, 東京, 2012.11.20.–2012.11.22.
67. 田代雄祐、酒井玲、牧野利明、杉浦智子、加藤将夫、高田龍平、鈴木洋史、松尾洋孝、水上元 蛇床子の尿酸トランスポーターURAT1 阻害作用とその活性成分. 第 42 回日本東洋医学会東海支部学術総会, 名古屋, 2012.11.11.
68. 田代雄祐、酒井玲、牧野利明、水上元、杉浦智子、加藤将夫、高田龍平、鈴木

- 洋史、松尾洋孝(順不同)生薬からの尿酸トランスポーターURAT1 阻害物質の探索. 日本生薬学会第 59 回年会, 千葉, 2012.9.17.-18.
69. 高田龍平、市田公美、松尾洋孝、中山昌喜、村上啓造、山梨義英、春日裕志、四ノ宮成祥、鈴木洋史 ABCG2/BCRP による腸管への尿酸排泄の低下は腎外排泄低下型高尿酸血症をもたらす. 第 6 回トランスポーター研究会九州部会, 福岡, 2012.9.1.
70. 首藤剛、鈴木伸悟、金子雅幸、佐藤卓史、高田龍平、Mary Ann Suico、鈴木洋史、甲斐広文. HRD1・RMA1 ユビキチンリガーゼファミリーによる E3 活性依存的・非依存的なヒト ABCG5/ABCG8 蛋白質の負の制御. 第 6 回トランスポーター研究会九州部会, 福岡, 2012.9.1.
71. 高田龍平、鈴木洋史. 脂溶性ビタミンの消化管吸収機構. 第 15 回 Vitamin E Update Forum, 東京, 2012.8.26.
72. Tappei Takada, Yoshihide Yamanashi and Hiroshi Suzuki. NPC1L1 as a negative regulator of NPC2 protein. (NPC1L1 は NPC2 タンパク質を負に制御する) 第 44 回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 福岡, 2012.7.19.-2012.7.20. (高得点ポスターセッションにノミネート)
73. 高田龍平、市田公美、松尾洋孝、中山昌喜、村上啓造、山梨義英、春日裕志、四ノ宮成祥、鈴木洋史 ABCG2/BCRP による腸管への尿酸排泄の低下は腎外排泄低下型高尿酸血症の原因となる. 医療薬学フォーラム 2012/第 20 回クリニカルファーマシー
- シンポジウム, 福岡, 2012.7.14.-2012.7.15.
74. 伊藤雅方、山梨義英、豊田優、中瀬古寛子、杉山篤、鈴木洋史、高田龍平、赤羽悟美. 脂質転移タンパク質 STARD10 の胆汁酸調節への関与. 第 126 回日本薬理学会関東部会, 東京, 2012.7.14.
75. 高田龍平、山本英明、増尾友佑、山梨義英、鈴木洋史. 胆汁中へのコレステロール分泌におけるトランスポーターソーム. 第7回トランスポーター研究会, 京都, 2012.6.9.-2012.6.10.
76. 山本英明、高田龍平、小西健太郎、山梨義英、増尾友佑、山本武人、鈴木洋史. エゼチミブによるビタミン K 吸收阻害作用を介した薬物間相互作用に関する研究. 第7回トランスポーター研究会, 京都, 2012.6.9.-2012.6.10.
77. 豊田優、中川大、五味常明、坂井靖夫、中島正洋、吉浦孝一郎、新川詔夫、高田龍平、鈴木洋史、石川智久. ヒト ABCC11 遺伝子型とアポクリン腺の発達および関連形質の関係. 第7回トランスポーター研究会, 京都, 2012.6.9.-2012.6.10.
78. 伊藤雅方、山梨義英、豊田優、高田龍平、中瀬古寛子、杉山篤、鈴木洋史、赤羽悟美. 脂質転移タンパク質 STARD10 の胆汁酸調節への関与について. 第7回トランスポーター研究会, 京都, 2012.6.9.-2012.6.10.
79. 首藤剛、鈴木伸悟、金子雅幸、佐藤卓史、高田龍平、Mary Ann Suico、鈴木洋史、甲斐広文. ヒト ABC トランスポーター ABCG5 および ABCG8 の E3 ユビキチンリガーゼ HRD1・RMA1 による負の制御.

- 第7回トランスポーター研究会, 京都, 2012.6.9.-2012.6.10.
80. 吉門崇、高田龍平、伊藤晃成、三田智文、鈴木洋史. チクロピジン代謝物の胆汁排泄による胆汁形成の変化—MRP2/ABCC2 の関与. 第 20 回肝病態生理研究会, 金沢, 2012.6.6.
81. 高田龍平、市田公美、松尾洋孝、中山昌喜、村上啓造、山梨義英、春日裕志、四ノ宮成祥、鈴木洋史: ABCG2/BCRP による腸管への尿酸排泄の低下は腎外排泄低下型高尿酸血症を引き起こす. 日本薬剤学会第 25 年会, 神戸, 2012.5.24-2012.5.26.
82. 檀上稻穂、城田涼子、中村幸夫. Epstein-Barr virus を用いた B 細胞株樹立の効率に影響を与える因子の探索. 第 35 回日本分子生物学会, 博多, 2012.12.11-2012.12.14.
83. Danjoh I, Shirota R and Nakamura Y. Development of a robust method for establishing B cell lines using Epstein-Barr Virus. 2012 American Society of Human Genetics 62nd Annual Meeting, San Francisco, USA, 2012.11.6-2012.11.10.
84. 山本敏充、佐久間雅宣、加納祐一、川口裕佳、檀上稻穂、中村幸夫. 南米少数民族におけるYハプログループの比較. 第 66 回日本人類学会, 日吉, 2012.11.2-2012.11.4.
85. Danjoh I, Nakamura Y. Development of a robust method for establishing B cell lines using Epstein-Barr Virus. 第 71 回日本癌学会, 札幌, 2012.9.19-2012.9.21.
86. Kimiyoshi Ichida, Hirotaka Matsuo, Tappei Takada, Akiyoshi Nakayama, Keizo Murakami, Yoshihide Yamanashi, Hiroshi Kasuga, Yusuke Kawamura, Hiroki Inoue, Chisa Okada, Yoshitaka Utsumi, Makiko Nakamura, Yoshihiko Shinohara, Nariyoshi Shinomiya, Hiroshi Suzuki. Influence of ABCG2 dysfunction on uric acid excretion pathways. European Human Genetics Conference 2012, Nurnberg, Germany 2012.6.23-2012.6.26

<平成23年度業績>

【原著論文】

87. Kawamura Y, Matsuo H, Chiba T, Nagamori S, Nakayama A, Inoue H, Utsumi Y, Oda T, Nishiyama J, Kanai Y, Shinomiya N. Pathogenic GLUT9 Mutations Causing Renal Hypouricemia Type 2 (RHUC2). *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids*. 30(12): 1105-1011, 2011.
88. Nakayama A, Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Ikebuchi Y, Ito K, Hosoya T, Kanai Y, Suzuki H, Shinomiya N. ABCG2 is a high-capacity urate transporter and its genetic impairment increases serum uric acid levels in humans. *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids*. 30(12): 1091-1097, 2011.
89. Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Nakayama A, Takada Y, Okada C, Sakurai Y, Hosoya T, Kanai Y, Suzuki H, Shinomiya N. Identification of ABCG2 dysfunction as a major factor

- contributing to gout. *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids.* 30(12): 1098-1104, 2011.
90. Nakashima M, Kinoshita M, Nakashima H, Habu Y, Miyazaki H, Shono S, Hiroi S, Shinomiya N, Nakanishi K, Seki S. Pivotal Advance: Characterization of mouse liver phagocytic B cells in innate immunity. *J Leukoc Biol.* 91(4): 537-546, 2012.
91. Tanaka M, Kinoshita M, Yoshihara Y, Shinomiya N, Seki S, Nemoto K, Hirayama T, Dai T, Huang L, Hamblin MR, Morimoto Y. Optimal photosensitizers for photodynamic therapy of infections should kill bacteria but spare neutrophils. *Photochem Photobiol.* 88(1): 227-232, 2012.
92. Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Nakayama A, Suzuki H, Hosoya T, Shinomiya N. ABCG2/BCRP dysfunction as a major cause of gout. *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids.* 30(12): 1117-1128, 2011.
93. Shono S, Habu Y, Nakashima M, Sato A, Nakashima H, Miyazaki H, Kinoshita M, Tsumatori G, Shinomiya N, Seki S. The immunologic outcome of enhanced function of mouse liver lymphocytes and Kupffer cells by high-fat and high-cholesterol diet. *Shock.* 36(5): 484-493, 2011.
94. Fujita M, Sato H, Kaku K, Tokuno S, Kanatani Y, Suzuki S, Shinomiya N. Airport quarantine inspection, follow-up observation, and the prevention of pandemic influenza. *Aviat Space Environ Med.* 82(8): 782-789, 2011.
95. Minehata M, Sture J, Shinomiya N, Whitby S. Implementing biosecurity education: approaches, resources and programmes. *Sci Eng Ethics.* 2011. [Epub ahead of print]
96. Kinoshita M, Miyazaki H, Ono S, Inatsu A, Nakashima H, Tsujimoto H, Shinomiya N, Saitoh D, Seki S. Enhancement of neutrophil function by IL-18 therapy protects burn-injured mice from MRSA infection. *Infect Immun.* 79(7): 2670-2680, 2011.
97. Hamajima N, Okada R, Kawai S, Hishida A, Morita E, Yin G, Wakai K, Matsuo H, Inoue H, Takada Y, Asai Y, Mori A, Naito M. Significant association of serum uric acid levels with SLC2A9 rs11722228 among a Japanese population. *Mol Genet Metab.* 103(4): 378-382, 2011.
98. Hamajima N, Naito M, Hishida A, Okada R, Asai Y, Wakai K. Serum uric acid distribution according to SLC22A12 W258X genotype in a cross-sectional study of a general Japanese population. *BMC Med Genet.* 12: 33, 2011.
99. Kuriki S, Okada R, Suzuki K, Ito Y, Morita E, Naito M, Hamajima N. SLC22A12 W258X frequency according to serum uric acid level among Japanese health checkup examinees. *Nagoya J Med Sci.* 73(1-2): 41-48, 2011.
100. Hotta K, Kitamoto A, Kitamoto T,

- Mizusawa S, Teranishi H, Matsuo T, Nakata Y, Hyogo H, Ochi H, Nakamura T, Kamohara S, Miyatake N, Kotani K, Komatsu R, Itoh N, Mineo I, Wada J, Yoneda M, Nakajima A, Funahashi T, Miyazaki S, Tokunaga K, Masuzaki H, Ueno T, Chayama K, Hamaguchi K, Yamada K, Hanafusa T, Oikawa S, Yoshimatsu H, Sakata T, Tanaka K, Matsuzawa Y, Nakao K, Sekine A. Genetic variations in the CYP17A1 and NT5C2 genes are associated with a reduction in visceral and subcutaneous fat areas in Japanese women. *J Hum Genet.* 57(1): 46-51, 2012.
101. Ueno H, Mochizuki H, Shirouzu K, Kusumi T, Yamada K, Ikegami M, Kawachi H, Kameoka S, Ohkura Y, Masaki T, Kushima R, Takahashi K, Ajioka Y, Hase K, Ochiai A, Wada R, Iwaya K, Nakamura T, Sugihara K. Actual status of distribution and prognostic impact of extramural discontinuous cancer spread in colorectal cancer. *J Clin Oncol.* 29(18): 2550-2556, 2011.
102. Hayase T, Ayaori M, Sato H, Tanaka N, Ohashi K, Uto-Kondo H, Ikewaki K, Ohsuzu F. Impact of low-and high-density lipoprotein cholesterol levels on carotid intima-media thickness differs by smoking status in middle-aged men. *J Atheroscler Thromb.* 2012. (in press)
103. Hisada T, Ayaori M, Ohru N, Nakashima H, Nakaya K, Uto-Kondo H, Yakushiji E, Takiguchi S, Terao Y, Miyamoto Y, Adachi T, Nakamura H, Ohsuzu F, Ikewaki K, Sakurai Y. Statin inhibits hypoxia-induced endothelin-1 via accelerated degradation of HIF-1 α in vascular smooth muscle cells. *Cardiovasc Res.* 2012. [Epub ahead of print]
104. Ayaori M, Yakushiji E, Ogura M, Nakaya K, Hisada T, Uto-Kondo H, Takiguchi S, Terao Y, Sasaki M, Komatsu T, Iizuka M, Yogo M, Uehara Y, Kagechika H, Nakanishi T, Ikewaki K. Retinoic acid receptor agonists regulate expression of ATP-binding cassette transporter G1 in macrophages. *Biochim Biophys Acta.* 2012. [Epub ahead of print]
105. Tada H, Kawashiri MA, Ikewaki K, Terao Y, Noguchi T, Nakanishi C, Tsuchida M, Takata M, Miwa K, Konno T, Hayashi K, Nohara A, Inazu A, Kobayashi J, Mabuchi H, Yamagishi M. Altered metabolism of low-density lipoprotein and very low-density lipoprotein remnant in autosomal recessive hypercholesterolemia: results from stable isotope kinetic study in vivo. *Circ Cardiovasc Genet.* 5(1): 35-41, 2011.
106. Ozasa H, Ayaori M, Iizuka M, Terao Y, Uto-Kondo H, Yakushiji E, Takiguchi S, Nakaya K, Hisada T, Uehara Y, Ogura M, Sasaki M, Komatsu T, Horii S, Mochizuki S, Yoshimura M, Ikewaki K. Pioglitazone enhances cholesterol efflux

- from macrophages by increasing ABCA1/ABCG1 expressions via PPAR γ /LXR α pathway: findings from in vitro and ex vivo studies. *Atherosclerosis*. 219(1): 141-150, 2011.
107. Ogura M, Ayaori M, Terao Y, Hisada T, Iizuka M, Takiguchi S, Uto-Kondo H, Yakushiji E, Nakaya K, Sasaki M, Komatsu T, Ozasa H, Ohsuzu F, **Ikewaki K**. Proteasomal inhibition promotes ATP-binding cassette transporter A1 (ABCA1) and ABCG1 expression and cholesterol efflux from macrophages in vitro and in vivo. *Arterioscler Thromb Vasc Biol*. 31(9): 1980-1987, 2011.
108. Terao Y, Ayaori M, Ogura M, Yakushiji E, Uto-Kondo H, Hisada T, Ozasa H, Takiguchi S, Nakaya K, Sasaki M, Komatsu T, Iizuka M, Horii S, Mochizuki S, Yoshimura M, **Ikewaki K**. Effect of sulfonylurea agents on reverse cholesterol transport in vitro and vivo. *J Atheroscler Thromb*. 18(6): 513-530, 2011.
109. **Ikewaki K**, Ayaori M. Strong statins as the major players for dyslipidemia in high-risk patients: are they all the same or not? *Circ J*. 75(6): 1326-1327, 2011.
110. Takiguchi S, Ayaori M, Kondo H, Iizuka M, Sasaki M, Komatsu T, Takase B, Adachi T, Ohsuzu F, **Ikewaki K**. Olmesartan improves endothelial function in hypertensive patients: link with extracellular superoxide dismutase. *Hypertens Res*. 34(6): 686-692, 2011.
111. Yamanashi Y, **Takada T**, Shoda J, Suzuki H. A novel function of NPC1L1 as a negative regulator of NPC2 protein. *Hepatology*. 55(3): 953-964, 2012
112. Takeda Y, Abe A, Nakanishi S, Umez M, Hirano K, Hayakawa H, Ohno I, **Ichida K**, Yamaguchi Y, Hosoya T, Fukagawa M. Two Cases of Nephrotic Syndrome (NS)-induced Acute Kidney Injury (AKI) Associated with Renal Hypouricemia. *Clin Nephrol*. 76: 78-82, 2011.
113. Sebesta I, Stiburkova B, Bartl J, **Ichida K**, Hosoyamada M, Taylor J, Marinaki A. Diagnostic tests for primary renal hypouricemia. *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids*. 30: 1112-1116, 2011.
114. Shinohara Y, Suzuki Y, Hasegawa H, Nakamura M, Nishiyama T, Hiratsuka A, **Ichida K**. Stable isotope dilution mass spectrometric assay for PRPP using enzymatic procedures. *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids*. 30: 1140-1146, 2011.
115. **Hosoya T**, Ohno I, **Ichida K**, Peters GJ. Gout and hyperuricemia in Japan: perspectives for international research on purines and pyrimidines in man. *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids*, 30: 1001-1010, 2011.
116. Hasegawa H, Shinohara Y, Akahane K, Hashimoto T, **Ichida K**. Altered D-Methionine kinetics in rats with renal impairment. *Amino Acids*. 40(4): 1205-1211, 2011.

117. Carmi-Nawi N, Malinge G, Mandel H, Ichida K, Lerman-Sagie T, Lev D. Prenatal brain disruption in molybdenum cofactor deficiency. *J Child Neurol.* 26: 460-464, 2011.
118. Hasegawa H, Shinohara Y, Masuda N, Hashimoto T, Ichida K. Simultaneous determination of serine enantiomers in plasma using Mosher's reagent and stable isotope dilution gas chromatography-mass spectrometry. *J Mass Spectrom.* 46: 502-507, 2011.
119. Matsukawa T, Hasegawa H, Shinohara Y, Kobayashi J, Shinohara A, Chiba M, Ichida K, Yokoyama K. Simultaneous determination of selenomethionine enantiomers in biological fluids by stable isotope dilution gas chromatography-mass spectrometry. *J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci.* 879(29): 3253-3258, 2011.
120. Kimura T, Amonpatumrat S, Tsukada A, Fukutomi T, Jutabha P, Thammapratip T, Lee EJ, Ichida K, Anzai N, Sakurai H. Increased expression of SLC2A9 decreases urate excretion from the kidney. *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids.* 30: 1295-1301, 2011.

【総説・著書】

121. 松尾洋孝, 四ノ宮成祥. 腎性低尿酸血症の遺伝学. *Annual Review 糖尿病・代謝・内分泌*. 中外医薬社, 東京, 145-154, 2012.
122. 松尾洋孝. 【臨床医のための高尿酸血症・痛風のABC】その他 痛風の遺伝素因を教えてください. *高尿酸血症と痛風*. 20: 84-86, 2012.
123. 松尾洋孝. 【尿酸】 高尿酸血症と腎輸送体. *腎臓*. 34: 16-22, 2011.
124. 高田雄三, 松尾洋孝. 痛風・高尿酸血症の原因遺伝子 (ABCG2) . *Medical Technology*. 39: 884-886, 2011.
125. 高田龍平, 松尾洋孝. 尿酸排出トランスポーターABCG2/BCRPと痛風発症リスク. *生化学*. 83: 1131-1134, 2011.
126. 高田龍平, 山梨義英, 鈴木洋史. コレステロールの胆汁排泄におけるトランスポートソーム. くすりとからだ. 139: 56-60, 2012.
127. 高田龍平. コレステロール輸送体. *GI.Research.* 19(5): 25-32, 2011.
128. 高田龍平. 脂溶性ビタミンのトランスポーター. *栄養・食品機能とトランスポーター*. 建帛社, 東京, 167-182, 2011.
129. 山梨義英, 高田龍平, 吉門崇, 正田純一, 鈴木洋史. Niemann-Pick C2 は ABCG5/G8 によるコレステロール排出を促進する. *薬理と治療*. 38: 127-129, 2010.
130. 高田龍平, 鈴木洋史. コレステロールトランスポーターNPC1L1によるビタミンEの消化管吸収. *ビタミン*. 84(8): 376-383, 2010.
131. 市田公美. 【臨床医のための高尿酸血症・痛風のABC】その他 健康診断で血清尿酸値の低い人がいます。何か不都合はありますか? *高尿酸血症と痛風*. 20: 78-80, 2012.
132. 市田公美. 尿酸代謝異常症の最前線

- Bio Clinica*. 27: 124-129, 2012.
133. 市田公美. 併存疾患別にみた高尿酸血症治療・管理のあり方 腎障害・慢性腎臓病（CKD）合併例 *Progress in Medicine*. 32: 41-46, 2012.
134. 市田公美. 低尿酸血症. 痛風と核酸代謝. 35: 159-168, 2011.
135. 市田公美. 腎性低尿酸血症 *腎臓*. 34: 10-15, 2011.
136. 市田公美. 尿酸代謝における最近のトピックス-尿酸代謝の新たな展開-Glucose transporter family member SLC2A9 と血清尿酸値. *高尿酸血症と痛風*. 19: 109-114, 2011.
137. 市田公美. 腎における尿酸トランスポーター. *日本医師会雑誌*. 140: 316, 2011.
138. 市田公美. 尿細管疾患の臨床 遺伝性低尿酸血症. *日本腎臓学会誌*. 53(2): 142-145, 2011.
139. 市田公美. 尿酸トランスポーター. *内分泌・糖尿病・代謝内科*. 33(5): 468-474, 2011.
140. 市田公美. 腎臓症候群 高尿酸血症に伴う腎障害. *日本臨床別冊*. 342-345, 2011.
141. 市田公美. 腎臓症候群 キサンチン尿症. *日本臨床別冊*. 365-368, 2011.
142. 市田公美. 腎臓症候群 腎性低尿酸血症（特発性、続発性）. *日本臨床別冊*. 842-845, 2011.
143. 市田公美. 高尿酸血症を管理・治療する わが国の高尿酸血症の管理・治療と世界の現状. *Mebio*. 28: 94-100, 2011.
144. 市田公美. 尿酸と高血圧 腸器障害リスクプレーヤーとしてのキサンチノーキシダーゼ. *血圧*. 18: 618-621, 2011.
145. 市田公美. 高尿酸血症のマネジメント-臓器障害の観点から 尿酸排泄促進薬. *カレントテラピー*. 29: 635-641, 2011.
146. 市田公美. 私の処方 急性痛風関節炎. *Modern Physician*. 31: 1253, 2011.
- 【学会発表】
147. Ichida K. Molecular characterization in Japanese patients with classical xanthinuria. *European Human Genetics Conference 2011*. Amsterdam, Netherlands, 2011.5.28-2011.5.31.
148. 菅憲広, 大林孝彰, 渡辺勇次郎, 藤井幹子, 北川渡, 今井裕一, 山田晴生, 市田公美. 運動後急性腎不全をきたした腎性低尿酸血症の1例. 第216回日本内科学会 東海地方会例会, 名古屋, 2011.2.4.
149. 篠原佳彦, 野崎早弥子, 長谷川弘, 山田裕一, 市田公美. 液体クロマトグラフィー-タンデム質量分析法による赤血球中ホスホリボシルピロリン酸の定量法の開発. 第45回日本痛風・核酸代謝学会学術集会, 奈良, 2012.2.16-2012.2.17.
150. 中村真希子, 荒川伸介, 松尾広大, 細山田真, 安西尚彦, 市田公美. Fluoresceinを用いた尿酸トランスポーター機能評価法の開発. 第45回日本痛風・核酸代謝学会学術集会, 奈良, 2012.2.16-2012.2.17.
151. 宮崎聰, 山本康孝, 浜田紀宏, 水田栄

- 之助, 太田原顕, 萩野和秀, 加藤雅彦, 市田公美, 山本一博, 久留一郎. イルベサルタンが降圧不十分な高血圧患者の尿酸代謝に及ぼす効果の検討. 第45回日本痛風・核酸代謝学会学術集会, 奈良, 2012.2.16-2012.2.17.
152. 古林由生, 山浦千恵, 飛田将希, 中村真希子, 市田公美. 運動後急性腎不全の発症機序における活性酸素障害仮説の検討. 第85回日本薬理学会年会, 京都, 2012.3.14-2012.3.16.
153. 中村真希子, 荒川伸介, 松尾広大, 細山田真, 安西尚彦, 市田公美. 蛍光化合物を用いた有機アニオントランスポーター機能評価法の開発. 第85回日本薬理学会年会, 京都, 2012.3.14-2012.3.16.
154. 中村真希子, 武居宏樹, 細野彩奈, 市田公美. ウリカーゼ融合タンパク質を用いた尿酸の蛍光検出法の開発. 日本化学会第92春季年会, 横浜, 2012.3.25-2012.3.28.
155. 篠原佳彦, 野崎早弥子, 長谷川弘, 山田裕一, 市田公美. 赤血球中ホスホリボシルピロリン酸のLC-MS/MSを用いた直接定量. 日本薬学会第132年会, 札幌, 2012.3.28-2012.3.31.
156. 荒川伸介, 中村真希子, 細山田真, 斎藤英胤, 市田公美. 蛍光イメージングを用いた尿酸トランスポーター機能解析法の開発. 第6回日本分子イメージング学会学術集会, 神戸, 2011.5.24-2011.5.25.
157. 安西尚彦, Jutabha P, 木村徹, 北村健一郎, 市田公美. 新規ヒト尿酸／有機酸トランスポーターURAT2の分子同定. 第54回日本腎臓学会学術総会, 横浜, 2011.6.15-2011.6.17.
158. 篠原佳彦, 野崎早弥子, 長谷川弘, 中村真希子, 市田公美. LC-MS/MSによる赤血球中 5-phosphoribosyl-1-pyrophosphate の定量法の開発. 日本分析化学会第60年会, 名古屋, 2011.9.14-2011.9.16.
159. 長谷川弘, 篠原佳彦, 田村優香, 金子知由, 橋本隆男, 市田公美. GC-MSによる重水素標識及び非標識メチオニン及びホモシステインの同時定量法の開発. 日本分析化学会第60年会, 名古屋, 2011.9.14-2011.9.16.
160. 荒川伸介, 中村真希子, 細山田真, 安西尚彦, 市田公美. 蛍光化合物を用いた尿酸トランスポーター動態評価法の開発. 第84回日本生化学会大会, 京都, 2011.9.21-2011.9.24.
161. 武居宏樹, 中村真希子, 市田公美. 蛍光タンパク質プローブを用いた尿酸の蛍光検出法の開発. 第84回日本生化学会大会, 京都, 2011.9.21-2011.9.24.
162. 飛田将希, 中村真希子, 長谷川弘, 市田公美. 運動後急性腎不全の発症機序における腎血管収縮の寄与の検討. 第84回日本生化学会大会, 京都, 2011.9.21-2011.9.24.
163. 吉川和寛, 中村雅将, 土田健司, 水口潤, 市田公美. URAT1 coding regionにG774A heterozygous mutationを見出した運動後急性腎不全の一例. 第41回日本腎臓学会西部学術大会, 徳島, 2011.9.30-2011.10.1.
164. 植木研次, 永江洋, 下村有希子, 片淵

- 律子, 市田公美. 脱水による急性腎不全をきたし, URAT1 遺伝子変異を同定した腎性低尿酸血症の一例. 第41回日本腎臓学会西部学術大会, 徳島, 2011.9.30-2011.10.1.
165. 中村真希子, 飛田将希, 長谷川弘, 市田公美. 運動後急性腎不全の発症機序における腎血管収縮の寄与の検討. 第128回成医会総会, 東京, 2011.10.6-2011.10.7.
166. 上竹大二郎, 山口雄一郎, 西川元, 宮田美穂, 岡部英明, 五味秀穂, 市田公美, 大野岩男, 細谷龍男. フェノファラートの尿酸代謝とURAT1に及ぼす影響. 第128回成医会総会, 東京, 2011.10.6-2011.10.7.
167. 中村真希子, 武居宏樹, 市田公美. ウリカーゼ融合タンパク質を用いた尿酸の蛍光検出法の開発. 第33回日本バイオマテリアル学会大会, 京都, 2011.11.21-2011.11.22.
168. 市田公美. 血清尿酸値低下のメカニズムとイルベサルタンの新しい知見—尿酸取り込み阻害作用. 第54回日本腎臓学会学術総会 ランチョンセミナー, 横浜, 2011.6.17.
169. 市田公美. 尿酸トランスポーターについての最近の話題. 長崎県病院薬剤師会学術講演会, 長崎, 2011.7.6.
170. 市田公美. 血清尿酸値低下のメカニズムとイルベサルタンの新しい知見—尿酸取り込み阻害作用. アバプロ発売3周年記念講演会, 名古屋, 2011.7.23.
171. 市田公美. 教育講演 高尿酸血症の成因と治療 第5回日本腎と薬剤研究会学術大会 2011. 北九州, 2011.9.18.
172. 市田公美. 高尿酸血症と内科疾患—メタボリックシンドロームとCKD. 日本橋医師会学術講演, 東京, 2011.9.21.
173. 市田公美. 痛風、高尿酸血症と肥満. 第一工業株式会社秋期労働衛生講習会, 東京, 2011.10.17.
174. 市田公美. ARBに求められる付加価値—アバプロの尿酸トランスポーター(URAT1)阻害作用. アバプロ発売3周年記念講演会 Power&Protectionの証明, 福岡, 2011.7.16.
175. 市田公美. 危険因子としての高尿酸血症. 小石川地区フェブリク発売記念講演会, 東京, 2011.10.21.
176. 市田公美. 高尿酸血症の病態と治療薬. 栃木県薬剤師会・栃木県病院薬剤師会学術講演会, 宇都宮, 2011.10.27.
177. 市田公美. 危険因子としての高尿酸血症—CKD及びCVDとの関係から最新の尿酸降下療法まで. 天理地区医師会定例会講演会, 天理, 2011.10.29.
178. 内海由貴, 松尾洋孝, 岡田千沙, Sander SE, Richter A, 中山昌喜, 加藤八重, 寺重翔, 鎌倉恵子, 四ノ宮成祥. 不随意運動モデルハムスター dt^{sz} における病因分子の探索. 第89回日本生理学会大会, 松本, 2012.3.29-2012.3.31.
179. 高田雄三, 松尾洋孝, 中山昌喜, 河村優輔, 井上寛規, 松村耕治, 四ノ宮成祥, 小林靖. 痛風リスク遺伝子検査法の確立. 第22回生物試料分析科学会年次学術集会, 福岡, 2012.3.10-2012.

- 3.11.
180. Matsuo H, Takada Y, Nakayama A, Utsumi Y, Shinomiya N. Genotyping ABCG2 to estimate gout risk- for practical use in the clinical setting. *4th Federation of European Biochemical Societies (FEBS) special meeting on ATP-Binding Cassette (ABC) Proteins (ABC2012)*, Innsbruck, Austria, 2012.3.3-2012.3.9.
181. Nakayama A, Matsuo H, Ichida K, Takada T, Takada Y, Nakashima H, Nakamura T, Sakurai Y, Hamajima N, Suzuki H, Shinomiya N. Changes in uric acid levels with dysfunctional ABCG2 and novel pathophysiological model of hyperuricemia. *4th Federation of European Biochemical Societies (FEBS) special meeting on ATP-Binding Cassette (ABC) Proteins (ABC2012)*, Innsbruck, Austria, 2012.3.3-2012.3.9.
182. 高田雄三, 松尾洋孝, 中山昌喜, 四ノ宮成祥, 鈴木晟幹. 実用化に向けた痛風リスク遺伝子タイピング. *第9回臨床福祉研究学術集会*, 東京, 2012.2.25-2012.2.26.
183. 中山昌喜, 松尾洋孝, 市田公美, 高田龍平, 井上寛規, 岡田千沙, 四ノ宮成祥. 大規模健診サンプルを用いた ABCG2遺伝子多型と血清尿酸値との関連解析. *第45回日本痛風・核酸代謝学会総会*, 奈良, 2012.2.16-2012.2.17.
184. 佐々木裕明, 高田雄三, 松尾洋孝, 中山昌喜, 高島瑠子, 内海由貴, 河村優輔, 四ノ宮成祥. 痛風遺伝子 ABCG2 の迅速診断法の確立. *第57回防衛衛生学会*, 東京, 2012.2.2.
185. 寺重翔, 松尾洋孝, 岡田千沙, 濱田剛, 小縣開, 加藤八重, 尾上裕行, 海田賢一, 小林靖, 鎌倉恵子, 四ノ宮成祥. 不随意運動モデルハムスター-dtszにおける候補遺伝子 MR-1 の解析. *第57回防衛衛生学会*, 東京, 2012.2.2.
186. 中山昌喜, 松尾洋孝, 及川雄二, 高田雄三, 中島宏, 中村好宏, 井上寛規, 森厚嘉, 内藤真理子, 菱田朝陽, 若井建志, 丹羽和紀, 櫻井裕, 浜島信之, 四ノ宮成祥. 痛風病因遺伝子 ABCG2 の変異と血清尿酸値との関連. *第22回日本疫学会学術総会*, 東京, 2012.1.26-2012.1.28.
187. 高田雄三, 松尾洋孝, 藤井安宇美, 井上寛規, 中山昌喜, 松村耕治, 鈴木洋史, 濱嶋信之, 四ノ宮成祥, 丹羽和紀, 小林靖. High Resolution Melting 法による ABCG2 遺伝子の SNP タイピング. *日本DNA多型学会第20回学術集会*, 横浜, 2011.12.1-2011.12.2.
188. 松尾洋孝. 痛風・高尿酸血症の主要病因遺伝子の同定と病態の解明. *東京大学医学部附属病院腎臓・内分泌内科リサーチカンファレンス*, 東京, 2011.11.29.
189. 松尾洋孝, 岡田千沙, 濱田剛, 中山昌喜, 内海由貴, 河村優輔, 尾上裕行, 海田賢一, 守本祐司, 小林靖, 鎌倉恵子, 四ノ宮成祥. 発作性ジストニア性舞踊アテトーゼの病因分子の探

- 素；家系症例と疾患モデル動物の遺伝学的解析. 日本人類遺伝学会第 56 回大会, 千葉, 2011.11.9-2011.11.12.
190. Okada C, Matsuo H, Sander SE, Hamann M, Richter A, Hamada T, Nakayama A, Utsumi Y, Kawamura Y, Onoue H, Kaida K, Kobayashi Y, Kamakura K, Shinomiya N. Molecular pathogenesis for paroxysmal involuntary movements as a channelopathy. genetic analysis of human cases and an animal model. *2011 International congress of human genetics*, Montreal, Canada, 2011.10.11-2011.10.15.
191. 松尾洋孝. ABCG2 の遺伝子多型と痛風リスク. 第 84 回生化学会シンポジウム, 京都, 2011.9.21-2011.9.24.
192. 岡田千沙, 松尾洋孝, 濱田剛, 中山昌喜, 内海由貴, 河村優輔, 尾上裕行, 海田賢一, 守本祐司, 小林靖, 鎌倉恵子, 四ノ宮成祥. 発作性神経疾患をきたす膜輸送体病の病因分子の探索. 第 84 回日本生化学会大会, 京都, 2011.9.21-2011.9.24.
193. 四ノ宮成祥, 吉森篤史, 高橋哲, 中山昌喜, 松尾洋孝, 守本祐司, 佐伯和徳, 高澤涼子, 田沼靖一. Met チロシンキナーゼを標的とした低分子抗腫瘍薬開発の試み. 第 29 回日本ヒト細胞学会学術集会, 富山, 2011.8.20-2011.8.21.
194. Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Nakayama A, Takada Y, Inoue H, Kawamura Y, Utsumi Y, Sakurai Y, Hosoya T, Suzuki H,
- Kanai Y, Shinomiya N. Gout is caused by common dysfunctional variants of ABCG2/BCRP. *BioMedical Transporters 2011*, Grindelwald, Switzerland, 2011.8.7-2011.8.11.
195. 四ノ宮成祥, 中山昌喜, 松尾洋孝, 守本祐司, 藤田真敬, 立花正一, 鈴木信哉. 細胞培養系を用いた一酸化炭素中毒神経障害メカニズム解析の試み. 第 8 回日本臨床高気圧酸素・潜水医学会, 東京, 2011.8.5.
196. 松尾洋孝. 尿酸排泄トランスポーターアBCG2/BCRP: 痛風の主要病因と個人裁量の展望. 金沢大学薬学シンポジウム 2011 -創薬動態フォーラム in 金沢, 金沢, 2011.7.29.
197. 松尾洋孝. 痛風の主要病因遺伝子 ABCG2/BCRP の解明とオーダーメイド医療の可能性. 流山市医師会学術講演会, 流山, 2011.6.15.
198. 河村優輔, 松尾洋孝, 岡田千沙, 濱田剛, 中山昌喜, 内海由貴, 尾上裕行, 海田賢一, 守本祐司, 小林靖, 鎌倉恵子, 四ノ宮成祥. 発作性神経疾患をきたす膜輸送体病. 大家系症例の臨床遺伝学的解析と疾患モデル動物の評価. 第 6 回トランスポーター研究会年会, 仙台, 2011.6.11-2011.6.12.
199. 松尾洋孝. 痛風・高尿酸血症の新規診断・治療ターゲット: 主要病因遺伝子 ABCG2/BCRP. 第 2 回福岡核酸代謝研究会, 福岡, 2011.6.9.
200. 高田雄三, 松尾洋孝, 丹羽和紀, 四ノ宮成祥. 痛風リスク遺伝子の迅速 SNP タイピング. 第 60 回日本医学検

- 査学会, 東京, 2011.6.4-2011.6.5.
201. Matsuo H, Takada T, Ichida K, Nakamura T, Nakayama A, Chiba T, Takada Y, Inoue H, Kawamura Y, Utsumi Y, Suzuki K, Watanabe S, Sakurai Y, Hosoya T, Suzuki H, Hamajima N, Shinomiya N. ABCG2 is a major causative gene for gout. *The 1st Symposium of Asia Pacific League of Associations for Rheumatology (APLAR)*, Taipei, Taiwan, 2011.4.15-2011.4.17. 【Young Investigator Award 受賞】
202. Takada T, Suzuki H. Molecular Mechanisms of Transporters for Bile Formation and Related Liver Diseases. *22nd Congress of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver (APASL 2012)*, Taipei, Taiwan, 2012.2.16-2012.2.19.
203. Takada T, Yamanashi Y, Suzuki H. Functional associations of ABCG5/G8, NPC1L1 and NPC2 in biliary cholesterol secretion. *ABC2011 in Kyoto –ABC Proteins/Membrane Meso-domains/ES-iPS cells*, Kyoto, 2011.11.16-2011.11.17.
204. Takada T, Yamanashi Y, Suzuki H. Functional associations of NPC1L1, NPC2 and ABCG5/G8 in biliary cholesterol secretion. *The 1st HD Physiology International Symposium: Integrative Multi-level Systems Biology for In Silico Cardiology and Pharmacokinetics*, Tokyo, 2012.1.20-2012.1.21.
205. Takada T, Yamanashi Y, Yoshikado T, Suzuki H. Functional interactions of ABCG5/ABCG8, NPC1L1 and NPC2 in the biliary secretion of cholesterol. *International Symposium on Past, Present and Future of Molecular Pharmacokinetics (PPF) – Integration of Basic Science, Drug Development and Regulation*, Tokyo, 2012.1.16-2012.1.18.
206. 高田龍平. 生活習慣病関連物質のトランスポーターによる体内動態制御に関する研究. Transporter-mediated regulation of pharmacokinetics of life style-related substances. *日本薬学会第132年会*, 札幌, 2012.3.28-2012.3.31. 【奨励賞受賞記念講演】
207. 首藤剛, 鈴木伸悟, 佐藤卓史, 杉山崇, 金子雅幸, 高田龍平, 鈴木洋史, 楠原洋之, 杉山雄一, Suico MA, 甲斐広文. ER quality control of disease-associated ABC Transporters. 疾患関連 ABC トランスポーターの小胞体品質管理機構. *第85回日本薬理学会年会*, 京都, 2012.3.14-2012.3.16.
208. 高田龍平, 山梨義英, 鈴木洋史. コレステロールトランスポーター NPC1L1 は NPC2 タンパク質を負に制御する. *日光シンポジウム*, 日光, 2011.12.17-2011.12.18.
209. 高田龍平, 小西健太郎, 山梨義英, 山本武人, 鈴木洋史. ビタミンKの消化管吸収阻害を介した薬物間相互作用に関する研究. *日光シンポジウム*, 日光, 2011.12.17-2011.12.18.

210. 伊藤雅方, 山梨義英, 高田龍平, 中瀬古寛子, 杉山篤, 鈴木洋史, 赤羽悟美. 脂質転移タンパク質 STARD10 の胆汁酸調節における役割. 日光シンポジウム, 日光, 2011.12.17-2011.12.18.
211. 伊藤雅方, 山梨義英, 高田龍平, 中瀬古寛子, 杉山篤, 鈴木洋史, 赤羽悟美. 脂質転移タンパク質 *Stard10* 欠損マウスにおける胆汁分泌と再吸収の変化. Loss of the steroidogenic acute regulatory protein-related lipid transfer (START) domain containing 10 (*Stard10*) gene alters biliary secretion and intestinal absorption of bile acids in mice. 第34回日本分子生物学会年会, 横浜, 2011.12.13-2011.12.16.
212. Takada T, Konishi K, Yamanashi Y, Yamamoto T, Suzuki H. Drug-drug interaction between ezetimibe and warfarin mediated by vitamin K absorption. 第5回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム, 名古屋, 2011.11.26-2011.12.27.
213. 高田龍平, 山梨義英, 鈴木洋史. コレスステロールの胆汁分泌制御における NPC1L1・NPC2・ABCG5/G8 の機能連関. 第33回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 岡山, 2011.11.24-2011.11.25.
214. 高田龍平. Regulatory mechanisms of bile lipids transport in the small intestine and liver. 消化管および肝臓におけるトランスポーターを介した胆汁脂質動態制御機構の解析. 第26回日本薬物動態学会年会, 広島, 2011.11.16-2011.11.18.
- 【奨励賞受賞記念講演】
215. 吉門崇, 高田龍平, 伊藤晃成, 三田智文, 鈴木洋史. Involvement of MRP2/ABCC2-mediated bile flow in the ticlopidine-induced alteration of bile composition. チクロピジンによる胆汁組成の変動における MRP2/ABCC2 の関与. 第26回日本薬物動態学会年会, 広島, 2011.11.16-2011.11.18.
216. Takada T. ABCG5/G8- and NPC1L1-mediated regulation of biliary secretion of cholesterol as pharmacological targets. Department of Molecular Pharmacokinetics 39th Mini-Symposium, 東京, 2011.9.27.
217. 高田龍平, 山梨義英, 鈴木洋史. コレスステロールトランスポーター NPC1L1 は NPC2 タンパク質の負の制御因子である. NPC1L1 functions as a negative regulator of NPC2 protein. 第84回日本生化学会大会, 京都, 2011.9.21-2011.9.24.
218. 高田龍平, 山梨義英, 鈴木洋史. コレスステロール結合蛋白質 NPC2 は ABCG5/G8 依存的なコレスステロール胆汁排泄を促進する. 第5回トランスポーター研究会九州部会, 宮崎, 2011.9.17.
219. 高田龍平, 小西健太郎, 山梨義英, 山本武人, 鈴木洋史. エゼチミブによるビタミン K 吸収阻害作用を介した薬物間相互作用に関する研究. 第5回ト

- ランスポーター研究会九州部会, 宮崎, 2011.9.17.
220. Takada T, Yamanashi Y and Suzuki H. Niemann-Pick C2 stimulates the ABCG5/G8-mediated cholesterol secretion into bile. 第43回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 札幌, 2011.7.15.-2011.7.16.
221. 高田龍平, 小西健太郎, 山梨義英, 山本武人, 鈴木洋史. エゼチミブとワルファリンの薬物間相互作用に関する研究. 医療薬学フォーラム 2011/第19回クリニカルファーマシーシンポジウム, 旭川, 2011.7.9-2011.7.10.
222. 伊藤雅方, 山梨義英, 高田龍平, 中瀬古寛子, 杉山篤, 鈴木洋史, 赤羽悟美. 脂質転移タンパク質 Stard10/PCTP-L の胆汁調節における役割. 第6回トランスポーター研究会年会, 仙台, 2011.6.11-2011.6.12.
223. 山梨義英, 高田龍平, 鈴木洋史. コレステロール結合蛋白質 NPC2 による ABCG5/G8 依存的なコレステロール胆汁排泄促進作用. 第53回日本脂質生化学会, 東京, 2011.5.12-2011.5.13.
- <平成22年度業績>
- 【原著論文】
224. Stiburkova B, Ichida K, Sebesta I. Novel homozygous insertion in SLC2A9 gene caused renal hypouricemia. *Mol Genet Metab.* 102(4): 430-435, 2011.
225. Wakai K, Hamaejima N, Okada R, Naito M, Morita E, Hishida A, Kawai S, Nishio K, et al. Profile of participants and genotype distributions of 108 polymorphisms in a cross-sectional study of associations of genotypes with lifestyle and clinical factors: a project in the Japan multi-institutional collaborative cohort (J-MICC) study. *J Epidemiol.* 21(3): 223-235, 2011.
226. Hosoyamada M, Takiue Y, Morisaki H, Cheng J, Ikawa M, Okabe M, Morisaki T, Ichida K, Hosoya T, Shibasaki T. Establishment and analysis of SLC22A12 (URAT1) knockout mouse. *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids.* 29(4-6): 314-320, 2010.
227. 塚田愛, 木村徹, Promsuk J, 安西尚彦, 市田公美, 櫻井裕之. 尿酸トランスポーターURAT1 トランスジェニックマウスにおける尿酸の体内動態. 痛風と核酸代謝. 34: 171-177, 2010.
228. Nakamura M, Anzai N, Jutabha P, Sato H, Sakurai H, Ichida K. Concentration-dependent inhibitory effect of irbesartan on renal uric acid transporters. *J Pharmacol Sci.* 114(1): 115-118, 2010.
229. Uetake D, Ohno I, Ichida K, Yamaguchi Y, Saikawa H, Endou H, Hosoya T. Effect of fenofibrate on uric acid metabolism and urate transporter 1. *Intern Med.* 49(2): 89-94, 2010.
230. Nindita Y, Hamada T, Bahrudin U, Hosoyamada M, Ichida K, Iwai C, Urashima S, Kuwabara N, Utami SB, Mizuta E, Yamada K, Igawa O, Shigemasa C, Ninomiya H, Tsuchihashi T, Hisatome I. Effect of losartan and benz bromarone on the level of human urate transporter 1 mRNA.

- Arzneimittelforschung.* 60(4): 186-188, 2010.
231. Matsukawa T, Hasegawa H, Shinohara Y, Kobayashi J, Shinohara A, Chiba M, **Ichida K**, Yokoyama K. Synthesis of D- and L-selenomethionine double-labeled with deuterium and selenium-82. *Chem Pharm Bull.* 58(12): 1658-1660, 2010.
232. Hasegawa H, Shinohara Y, Akahane K, Hashimoto T, **Ichida K**. Altered D-methionine kinetics in rats with renal impairment. *Amino Acids.* 40(4): 1205-1211, 2011.
233. Gümuş H, Ghesquiere S, Per H, Kondolot M, **Ichida K**, Poyrazoğlu G, Kumandaş S, Engelen J, Dundar M, Çağlayan AO. Maternal uniparental isodisomy is responsible for serious molybdenum cofactor deficiency. *Dev Med Child Neurol.* 52(9): 868-872, 2010.
234. Carmi-Nawi N, Malinge G, Mandel H, **Ichida K**, Lerman-Sagie T, Lev D. Prenatal brain disruption in molybdenum cofactor deficiency. *J Child Neurol.* 26(4): 460-464, 2011.
235. Hasegawa H, Shinohara Y, Masuda N, Hashimoto T, **Ichida K**. Simultaneous determination of serine enantiomers in plasma using Mosher's reagent and stable isotope dilution gas chromatography-mass spectrometry. *J Mass Spectrom.* 46(5): 502-507, 2011.
236. Shinohara Y, Hasegawa H, Kaneko T, Tamura Y, Hashimoto T, **Ichida K**. Analysis of [²H₇]methionine, [²H₄]methionine, methionine, [²H₄]homocysteine and homocysteine in plasma by gas chromatography-mass spectrometry to follow the fate of administered [²H₇]methionine. *J Chromatogr B Analyt Technol Biomed Life Sci.* 878(3-4): 417-422, 2010.
237. Shinohara Y, Hasegawa H, Hashimoto T, **Ichida K**. Synthesis of optically active deuterium-labeled homocysteine thiolactone. *J Label Compd Radiopharm.* 53: 552, 2010.
238. Yoshikado T, **Takada T**, Yamamoto T, Yamaji H, Ito K, Santa T, Yokota H, Yatomi Y, Yoshida H, Goto J, Tsuji S, Suzuki H. Itraconazole-induced cholestasis: involvement of the inhibition of bile canalicular phospholipid translocator MDR3/ABCB4. *Mol Pharmacol.* 79(2): 241-250, 2011.
239. Iwayanagi Y, **Takada T**, Tomura F, Yamanashi Y, Terada T, Inui KI, Suzuki H. Human NPC1L1 expression is positively regulated by PPARα. *Pharm Res.* 28(2): 405-412, 2011.
240. **Takada T**, Suzuki H. Molecular mechanisms of membrane transport of vitamin E. *Mol Nutr Food Res.* 54(5): 616-622, 2010.
241. Ikebuchi Y, Ito K, **Takada T**, Anzai N, Kanai Y, Suzuki H. Receptor for activated C-kinase 1 regulates the cell surface expression and function of ATP binding cassette G2. *Drug Metab Dispos.* 38(12): 2320-8, 2010.